

[平成19年度参考となる技術]

[技術名] ダイズ腐敗粒の発生を減らす効率的な防除体系

[要約] 殺虫剤の種子塗沫処理、フタスジヒメハムシの第2世代発生最盛期頃の薬剤散布および9月下旬の殺菌剤散布による防除体系によって、ダイズの腐敗粒の発生を無防除の10分の1以下に減らすことができる。

[キーワード] ダイズ、フタスジヒメハムシ、種子塗沫処理、殺虫剤散布、殺菌剤散布、腐敗粒発生抑制

[担当] 農業試験場・生産環境部・病理昆虫研究グループ

[連絡先] 電話 0776-54-5100 電子メール s-takaoka-sc@pref.fikui.lg.jp

---

[背景・ねらい]

近年、健全種子の供給により、紫斑病の発生は少なくなったが、フタスジヒメハムシ等による莢の食害や、子実肥大期から収穫期にかけての風雨による腐敗粒の発生が多く、ダイズの収量・品質低下の大きな要因となっている。そこで、腐敗粒の発生抑制を目的としたフタスジヒメハムシの防除と殺菌剤散布の防除体系を確立する。

[技術の内容・特徴]

1. 莢を食害するフタスジヒメハムシ第2世代成虫に対する防除効果は、クルーザーFS30による種子塗沫処理（乾燥種子1kgに対し原液6ml）を行い、さらに第2世代成虫発生最盛期前の8月下旬にカルホス粉剤（3kg/10a）を散布した防除体系が最も高く、腐敗粒の発生も少ない（図1）。
2. アミスターフロアブル（2000倍液150L）の散布時期では、9月下旬（収穫約20日前）の散布が最も腐敗粒の発生を抑制し、それより早い散布時期では効果が劣る（図2）。
3. 種子消毒1回＋生育期2回防除（クルーザーFS30による種子塗沫処理＋フタスジヒメハムシ第2世代成虫発生最盛期前の8月下旬にカルホス粉剤散布＋アミスターフロアブル2000倍液の9月下旬散布）によって、腐敗粒の発生を無防除の10分の1以下に減らすことができる（図3）。

[技術の活用面・留意点]

1. クルーザーFS30による種子塗沫処理は、平成19年3月31日現在で、ダイズではアブラムシ類、タネバエおよびネキリムシ類に登録がある。
2. クルーザーFS30による種子塗沫処理は、播種30日前から播種前日に行い、風乾後、播種期まで紙袋で保存することができる。
3. 自家採種した種子を用いる場合は、紫斑病が発生する恐れがあるので、開花期20～30日後に紫斑病の防除を行う。

[ 具体的データ ]

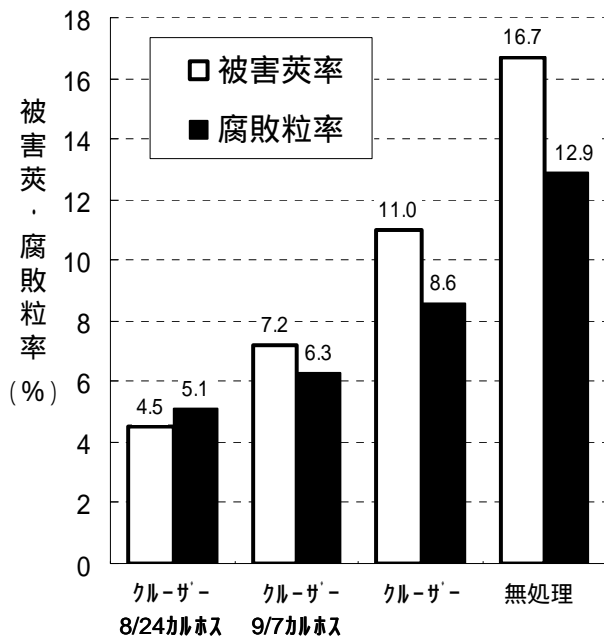


図1 フタスジヒメハムシの防除と被害莢及び腐敗粒の発生

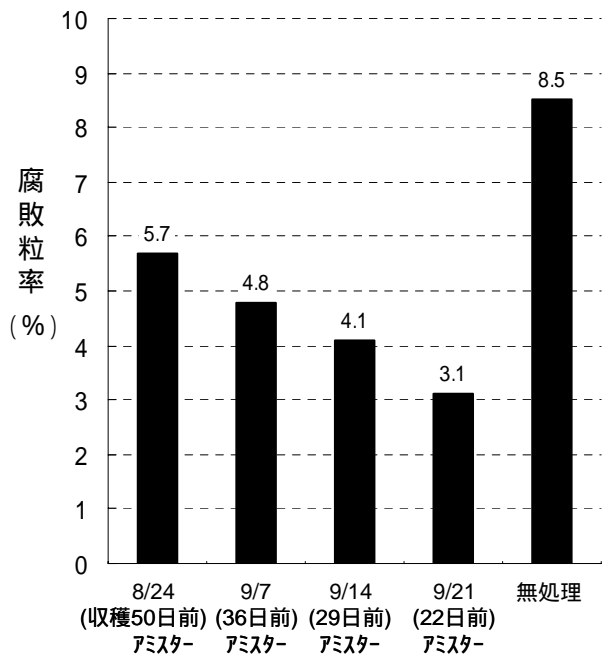


図2 殺菌剤の散布と腐敗粒の発生

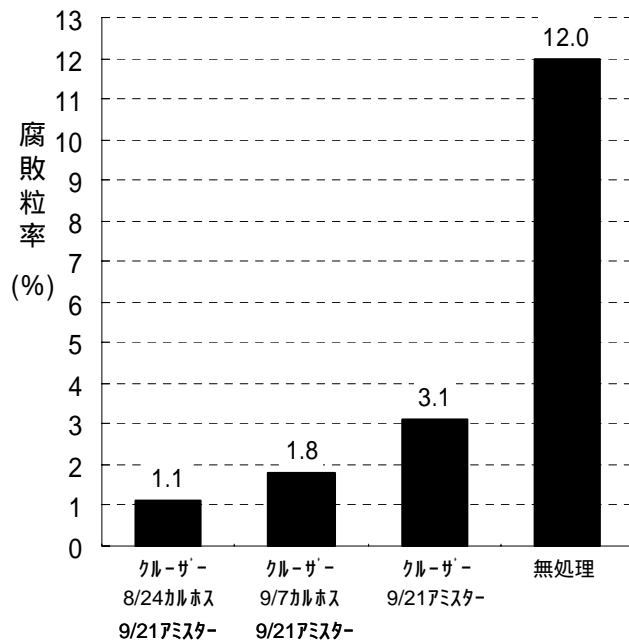


図3 フタスジヒメハムシの防除 + 殺菌剤散布体系と腐敗粒の発生

播種期 : 2006年6月20日  
 品種 : エンレイ  
 開花期 : 8月1日  
 収穫期 : 10月13日  
 フタスジヒメハムシ第2世代発生最盛期: 8月31日  
 調査方法 : 収穫期に各処理区から7株を採取し、フタスジヒメハムシによる被害莢数、腐敗粒数を調査した

[ その他 ]

研究課題名 : ダイズ主要害虫の発生生態の解明と効率的発生予察技術の開発

研究期間 : 2005 ~ 2006 年度

研究担当者 : 高岡誠一、富田浩治、水澤靖弥、早川嘉孝